

学校だより「J S K L通信」送信メール文 ～ 2018年4月～2021年3月～

下関市立垢田小学校 校長 神田 哲

(平成30年度派遣 マレーシア クアラルンプール日本人学校)

1. はじめに

クアラルンプール日本人学校では、毎月発行の学校だより「J S K L通信」作成は校長担当です。作成したものは、クアラルンプール日本人学校ホームページに掲載するとともに、日本国内のお世話になった方々へ送付していました。送付の際にメールに記した文章を読み返してみるとこの3年間の出来事がよく分かります。そこで、2018年4月から2021年3月までの毎月のメール送付文章のうち、主な出来事を紹介します。

2. 学校だより送信メール文

2018年4月

着任後3週間が経ちました。夫婦共にふうふう言いながらどうにか生活をしています。

校内は、小学部児童556名、中学部生徒132名、幼稚部園児92名、計780名、オールJAPANの各都道府県から派遣された個性豊かな3、40歳台の文部科学省派遣教員24名、再任用のシニア派遣教員6名、大卒3年未満の海外子女教育財団派遣の若手教員の教員17名、現地採用日本人教員3名、現地採用英会話講師10名、イマージョンスイミングコーチ（英会話による水泳指導）3名、日本人事務スタッフ4名、現地事務スタッフ4名、メンテナンススタッフ14名、幼稚部教員10名による幼小中一貫校です。

校外の生活は、マレー系、中華系、インド系の人々がともに暮らし、イスラム教のモスクの隣にキリスト教会があり、英語とマレー語が行き交う多民族国家を身近に感じる毎日です。業務も生活も慌ただしいのですが、毎日がマレーシアンホットスパイスのように刺激的で、積極性・協調性・柔軟性が日々鍛えられています。



2018年6月

こちらは雨季で夕方1時間くらいスクールが来ます。日中は毎日が30度以上ですが、湿度が低く影に入ると過ごしやすく感じます。

先月17日から今月14日までがラマダン（断食月）です。ムスリム（イスラム教信者）は日中は飲食はできません。水さえ飲めないのが辛いのではないかと思います。英会話ティーチャーやメンテナンス（校務用務）スタッフ、ガード（警備）スタッフの半数近くがムスリムです。中学部生徒の3名がムスリムです。この生徒達は昼食時間は別室で自習をして過ごしています。私たちにとっては日頃と変わりませんが、気はつかれます。レストラン以外で食べ歩き、飲み歩きをしないようにしています。学校行事も運動会はラマダンを避けるようにしています。他のイスラム教の国ではラマダン時期が一

番テロが多い時期ですが、ここマレーシアは、イスラム教、ヒンズー教、仏教、キリスト教が混在する多民族国家で互いに許容するし共生する国民性で治安も良いため安心して生活をしています。

2018年11月

着任してすぐに魅力あるJSKLづくりのための3つの柱を掲げました。「ICT教育」「英語教育」「心の教育」です。それぞれにプロジェクトチームを編成し実施に向けて少しずつ取り組んでいます。その1つ「ICT教育」での取組と悩みも含めてお伝えします。

文部科学省では、新学習指導要領の実施を見据え「2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」を取りまとめ、「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022年度）」を策定しています。それを受けて本校も早急にICT化に向けて予算編成から対応する必要があります。国内では与えられた施設環境でしたが、教育委員会がない日本人学校は予算からスタートになることが、やり甲斐を感じながらも辛い仕事です。学習者用コンピュータとして必要な機能は？機種による学習の目的は？発達段階に応じた機種は？コンピュータリテラシーの計画は？特にキーボード使用の指導計画は？学校予算か個人購入か？設置台数と今後の展開は？様々な質問が学校運営理事会でありましたので、5月の理事会から毎月プレゼンしていました。やっとトライアル使用で7月にアイパッド35台購入することができました。今後は、早急に実施できること、来年度から実施できること、私の任期中に実施できること、長期にわたり計画していくこと等をまとめていく予定です。全体の方向性、全体像、全体の青写真を描きつつ、そこまでの道標、マイルストーンを学校内外に提示し、修正を加えながら全体像はブレることなくICT教育、英語教育、心の教育を充実させていきたいと考えています。

2018年12月

11月は幼小中合同で、本年度から先行実施している「特別な教科 道徳科」の全校研究授業を行いました。「心の教育の充実」の具体的な取組の1つです。研究会の指導者は校長です。先月にもお知らせしましたように教育委員会がありませんので、良きも悪きもすべて自前です。今まででしたら教育委員会や教育センターに外部指導者の招聘をしていました。日本人学校は「ガラパゴス」になりがちです。学習指導要領改訂の時だからこそ、日本国内の教育の動向と文部科学省からの情報を教員、保護者、理事会、日本人コミュニティ等にわかりやすく発信することも校長の役割の1つです。学校の舵取りや教員の資質向上のための指導も当然校長の役割ですが、校長の私一人で良いのかという不安が大きくあります。教育委員会の指示指導、校長会の役割、近隣の校長同士の情報交換等



のありがたさを実感しています。

2019年4月

4月5日に新派遣者23名を受け入れました。3年任期ですので1年に3分の1が帰国、派遣を毎年繰り返します。小中学部は、文部科学省派遣教員12名、海外子女教育財団幹旋現地採用教員7名の19名が新たに着任しました。9名は北海道から福岡県まで個性豊かな中堅教員です。退職後のシニア派遣が3名、若手教員が7名です。4名は幼稚部教員です。マレーシア生活も暑く刺激的ですが、職員室も雰囲気が変わり毎日が刺激的です。

生活面では12月にアキレス腱断裂し、現地病院へ通院しました。海外でメスを入れての手術は抵抗があり保存療法にしました。また、3月末でコンドミニアム（マンション）を引っ越ししました。オーナーや不動産との交渉は英語です。私の聞く話す力ではとても交渉はできません。グーグル翻訳という立派なグーグル先生に教えてもらいながらメールによる英語でのやり取りで、どうにか希望のコンドミニアムに引っ越すことができました。時間ばかりかかり苦労の連続で、しなくても良い経験のようにも思いますが、このような経験も「現地理解」「現地体験」と研修の1つと思うようにして楽しんでいます。

2019年6月

マレーシアは今日でラマダンが終わります。明日から「ハリラヤプアサ」という祝日です。イスラム教のお正月です。先週の土曜日は日本の年末のように日頃の休日より自動車の混雑が激しく人通りが多かったように思います。野菜、果物、食肉、魚を扱う食料品マーケット（下関では唐戸市場と青果市場を併せたような市場）も混雑していました。今日は日本で言うところの大晦日に当たります。現地校は先週末から日曜日までお休みです。会社も休んでいるところが多く今朝は日頃より交通量が少なかったように思いました。

中華正月（1月下旬チャイニーズニューイヤー）、ヒンズー正月（2月上旬タイプーサム）もお休みになります。多民族が融合して互いを尊重し合う国ですから、どの正月もお休みです。New Yearと併せて4回の正月があります。それぞれの民族の特徴が街の中のイルミネーションにも表れ興味ある行事になっています。ただ、12月31日も1月2日も現地校は登校でしたので、マレーシアで一番盛り上がらない正月はNew Yearのように感じました。本日、お弁当を持って登校し勉強をしているのは日本人学校だけのように思います。日本人学校は「ハリラヤプアサ」の明日明後日2日間だけ休校です。

ラマダンが終わればイードと呼ばれる「断食明けの祝祭」です。「ハリラヤプアサ」には新しい服を着る習慣があるようです。それで、ラマダン中は街ではイスラム



系の服をバーゲンしていました。また、「オープンハウス」と言って誰でも家の中に招待して食事やおやつを振る舞う習慣があります。知らない人でもどのような宗教の人でもだれでも訪れて構いません。ムスリムの習慣ですからお酒はありません。イードは祝祭と同時にテロの危険性が高まる期間ではあるので、危機管理は必要ですが、ムスリムの方々の習慣に触れる良い期間です。

2019年7月

本校の正式名称、在マレーシア日本国大使館附属クアラルンプール日本人会日本人学校で示されているように大使館附属で日本人会所有のマレーシア教育省から認可されている私立学校です。学校代表は大使館「公使」、学校運営理事会理事長は日本人会副理事長の学校担当が務めることになっています。理事は大使館から2名（文部科学省派遣1等書記官、外務省領事部長）、日本人会から4名、マレーシア日本人商工会議所【JACTIM】から2名、学校教職員（校長・教頭・事務局長）3名、PTA会長1名の計12名です。日本人会、JACTIMからの派遣された理事は全て現役の役職駐在員です。学校経営の母体であるとともに学校教育の一番のサポート役でもあります。教育委員会も校長会もありませんので、私の一番の相談相手は、学校代表、理事長、文部科学省派遣1等書記官、領事部長です。理事の皆様はクアラルンプールでの大使館、企業の貢献活動とはいえ、本当にボランティアで学校を助けていただいています。

先週土曜日、日本人会総会がありました。クアラルンプール日本人会は、法人会員318社、個人会員約2,200世帯、4,800名の組織です。日本人会理事会の理事も全て現役の役職駐在員のボランティアです。正式名称のように日本人会の関連組織ですから園児児童生徒の入学条件に保護者の日本人会会員があります。教員も全員日本人会会員です。総会での2018年度事業報告の中に学校担当として本校理事長が、本校の学校教育面と財務会計面の経営方針と経営状況を説明しました。学校経営の状況が学校関係者のみならず日本人会を通して、クアラルンプール日本人コミュニティにも周知されます。総会に出席し、説明を聞きながら、来年2020年度の総会では「学校経営3か年計画の進捗状況」、再来年2021年度の総会では「学校経営3か年計画の成果と課題」を理事長が説明できるよう毎月の学校運営理事会で学校経営の取組と進捗状況をまとめ、伝える必要があると、身の引き締まる思いがしました。



総会での学校運営理事会理事長の所感を引用します。

『昨年は神田校長が打ち出された学校経営3か年計画の中でも特にICT教育の実行計画について時間を掛けて協議した。本年は同計画の2年目に当たり、英語教育、心の教育を含めた3つの取り組みが加速される。学校運営理事会としても積極的に関与していきたい。また本年は学校運営の各種仕組みを再整備し、ガバナンスを強化する重要

な年となる。まずは再整備を要する点を洗い出し、必要に応じて専門家のご意見も伺いながら、長期的観点から多面的に検討を進めていきたい。』



2019年10月

9月5日（木）6日（金）に第43回東アジア・大洋州地区日本人学校校長研究協議会及び校長配偶者研修会が行われました。校長会は毎年1回実施されます。世界中の日本人学校の校長会地区割りは「東アジア・大洋州」「中南米」「南西アジア・中東・アフリカ」「北米・欧州」です。クアラルンプール日本人学校は「東アジア・大洋州校長研究協議会」に属しています。年に1回「東アジア・大洋州日本人学校」39校の校長、校長配偶者が集まります。東アジアは全世界の学校数の半数、児童生徒数の8割以上が在籍しています。4地区でも最大規模の校長会です。校長会長校が会場となります。昨年度はオーストラリア・パース日本人学校、本年度はクアラルンプール日本人学校が会場校でした。東アジア・大洋州地区39校中の日本人学校のうち37名の校長、23名の校長配偶者が出席しました。また、外務省、大使館、文部科学省、海外子女教育振興財団、全国海外子女教育国際理解教育研究協議会の来賓、クアラルンプール日本人会、学校運営理事会関係の方々をお招きしました。関係機関からの指示指導、課題別研修、規模別研修を行いました。校長配偶者研修会も併せて行われ、各校の派遣教員配偶者会の実態と課題、課題解決に向けての取組について情報交換をしました。校長研究協議会と言っても年に1度しか集まりませんし、日頃はメールでのやりとりしかない校長会です。ほとんどの準備は校長会長1人が行います。協議会内容、日程調整等ほぼ1年をかけて準備をしてきました。準備の最後の仕上げのために8月末は休日出勤しました。校長配偶者研修会の準備もありますので、妻も校長室で細かな事務処理作業をしていました。夫婦で業務を協働することは国内ではありませんので良い経験をさせていただいていると思うようにしています。

2020年3月

マレーシアは3月中旬からのオーバーシュートは収束する気配がありません。18日

から始まった行動制限令は4月14日目で継続されることになりました。行動制限令には「外国人の入国禁止」が含まれていますので、4月7日に予定していた文部科学省派遣教員の赴任は中止となり、現在も赴任の見通しは立っていません。22日に始業式を予定していますが、どうのようになるか分からない状況です。



私自身は妻共々感染していないように思います。エレベーターを降りて玄関前にはアルコール消毒を置いています。外出は食品、生活必需品の買い物だけです。長期に渡る自宅待機はつらいものがありますが、とにかく感染予防行動しかないと思います。

2020年10月

マレー半島には戦前までに至るところに日本人街がありました。日本人街には併せて日本人墓地も作られています。クアラルンプールにも日本人街がありました。邦人互助組織、日本人会が結成されたのは1894年明治27年です。そして総計570名が眠る日本人墓地があります。本校は教員、小学部5、6年生の児童、中学部生徒が土曜日のボランティア活動で年に3回の清掃活動をしています。また、日本人会では春秋には日本より和尚様を招聘して彼岸法要を行っています。常夏のマレーシアですが季節を感じる行事の一つです。今年はコロナ禍により残念ながら彼岸法要は中止となりました。私たちの墓地清掃も活動制限により実施延期になっていましたが、今週土曜日に第1回目の墓地清掃を行うことができます。日本の秋分の日を思い出し、2018年に建立された慰霊碑の背面に書かれている「先人を偲び、平和への思いを込めて」を胸に抱きながら、子どもたちと墓地清掃をさせていただきます。



2021年1月

本日1月8日3学期始業式よりやっと学校再開することができました。10月12日から約3ヶ月ぶりの再開です。10月からオンライン授業第Ⅱ期と位置づけ実践をしてきました。再度休校となった10月末に赴任した令和2年度派遣教員もオンライン授業の画面を通してではなく、初めて子ども達と対面でお会いしました。



今回の学校再開の経緯です。年末に在マレーシア日本国大使館公使を中心としてアメリカ、オーストラリア、フランス、ドイツの各大使館連盟で各国の民族学校の再開を要望する書簡がマレーシア教育省へ提出されました。年が明けて2日に「学校再開に問題なし、J S K L始業式の8日再開が可能か再度教育省へ確認すること」との回答を公使よりいただきました。3日に教育省担当官から「8日再開可能」との連絡を受けました。マレーシア公立学校よりも早く学校再開することができました。任国に滞在する大使館をはじめとする邦人コミュニティの方々の御支援があってこそ日本人学校であると感じています。喜びもつかの間、1月末には再度休校になりました。

2021年3月

3月5日には行動制限令は解除される予定です。また、教育省から3月8日より学校再開の通達が来ました。12日が修了式ですので5日の登校ですが貴重な5日間となります。今日のオンライン授業の中でも何度も何度も「8日から本当に学校に行けるの？」と聞く児童がどの学級にもいたとのこと。子どもたちも登校を心待ちにしています。

10日は小学部卒業証書授与式です。学校再開後の卒業式ですので体育館で実施ができそうです。ただし人数制限のため、学級ごとの式、保護者はオンライン参観にする予定です。また、他学年は貴重な5日間のうちの1日です。6年生の卒業式と並行して他学年は通常授業を行います。6年生も卒業式後も弁当を食べて午後下校にする予定です。翌日も自由登校日とします。やっと登校できる貴重な5日間を特別な時間として学校生活を過ごさせたいと思います。

文部科学省から、4月6日に予定にしていた令和3年度派遣教員派遣日の延期の連絡が来ました。想定はしていましたが、後任校長を含め12名の新規派遣教員が赴任しない中での新学期となります。私の任期も残り2週間となりました。様々な状況を想定して、できる限り来年度の準備をしておきたいと思います。



3 おわりに

幼小中一貫校、学校運営理事会、マレーシアの私立学校、全国から集まる個性豊かな文部科学省派遣教員、学校採用教員の募集から面接・採用活動、授業料設定から予算編成・予算執行、教材備品輸入購入等々、ダイナミックに学校経営することを経験させていただきました。そして、「人」「もの」「こと」「金」「情報」を集めることと生かすことが校長の役割であることを実感することができました。

また、小学校教員である私は、幼小中一貫校である日本人学校での中学校長は大変貴重な体験でした。中学校教員のチーム対応、話し合いの進め方、生徒指導体制づくり、生徒会活動、同好会活動（部活動）等中学部には小学校とは違う文化がありました。

3年間の具体的な取組は、赴任した4月に掲げた中期目標「魅力あるJ SKLづくりのための3本柱3カ年計画」により、学校運営理事会の協力を得ながら進めた「ICT教育の充実」「英語教育の充実」「心の教育の充実」です。

思い残すことはたくさんあるのですが、3年間の派遣期間を微力ながらやりきったと感じながら、2021年3月13日コロナ禍の中、帰国の途につきました。

コロナ禍により、人気がなく日本人学校帰国教員の声だけが響いたクアラルンプール国際空港の出発ロビー、成田国際空港での厳しい入国審査とPCR検査、東京都内での2週間の宿泊施設待機の体験は派遣最後の思い出になりました。

